

令和4年度 名勝慶雲館庭園整備工事 特記仕様書

I. 工事概要

＜工事番号＞長歴第385号

＜工事名称＞名勝慶雲館庭園整備工事

＜工事場所＞長浜市港町

＜工 期＞契約締結日の翌日～令和5年3月24日

＜工事趣旨＞

この工事は、き損が進行している本館南側の枯流れ、表門の西側にある石積の修理、また、かつて池泉に水が湛えられていた時代の排水構造物の遺構であるレンガ柵の上に置かれた蓋を取り換え、慶雲館庭園の歴史的価値の維持を図るために行う。

＜工事規模＞

（1）枯流れ4修理工事

- ・延石・置石・集水柵・塩ビ管撤去：1式
- ・堰破損部修理：1箇所
- ・土工（堆積土除去・不陸整正・埋戻し）：1式
- ・玉石補充（枯流れ面積14.7㎡の40%）：1.2m³ ※
- ・危険木伐採（タブノキ）：1本
- ・地苔貼り付け：15.1㎡

※補充する石は、形状が扁平な2～3寸のもので、滋賀県姉川の河原石と同等品以上とする。

（2）石積修理工事（表門西側）

- ・生垣切り縮め・掘り取り：1式
- ・カズラ石取り外し・据え直し：18.4m（7本）
- ・石積解体・積み直し：2.5㎡
- ・石積背面掘削・埋戻し：1.5m³
- ・土工（盛土整形）：3.32m³
- ・生垣復旧：5m
- ・生垣補植（ウバメガシ）：5本

(3) レンガ柵蓋修理工事

柵蓋設置（グレーチング）：1枚

II. 適用

- (1) この特記仕様書は、「公園緑地工事共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）でいう特記仕様書で、本工事に適用する。
- (2) この工事の施工に当たっての一般事項は、共通仕様書による。

III. 工事共通図書及び参考資料

本工事は、本設計書の他下記の図書による。

- (1) 公園緑地工事共通仕様書（国土交通省）
- (2) 土木工事共通仕様書（国土交通省）
- (3) 土木工事必携 土木共通仕様書（関東地方整備局）

IV. 特記事項

1. 特記すべき地域事項の概要

文化財保護法による史跡名勝天然記念物
名勝慶雲館庭園

2. 一般共通事項

- (1) 作業対象は文化財であることを認識し、作業はこれを損なわないように注意しながら作業を行うこと。
- (2) 本工事は対象が文化財であることから、有識者による「名勝慶雲館庭園保存整備委員会」（以下、整備委員会という。）を組織し、整備内容や作業方法を協議決定しており、施工に当たっては、監督員同様に整備委員会の意見に従うこと。
- (3) 植物材料の担保（枯木補償）は、目的物引き渡し後12ヶ月とする。
- (4) 工事の主任技術者は、造園に関する高度な技術、経験を有し、工事の内容および目的を熟知し、作業員にもこれを周知徹底し、円滑に作業を行うこと。
- (5) 掘削作業はできる限り人力で行うこと。特に地下遺構があるなどの場合で特別な指示がある場合は、破壊しないように作業は立ち会いを求め慎重に行うこと。また、埋蔵文化財の発見等において、工事を一時中止し整備方法の変更となる場合がある。この場合、整備委員会での協議により方向性が確定された後、その内容の指示に従い、工事を再開すること。内容変更により、工期や工事費用の変更が生じた場合は、協議を行い調整すること。
- (6) 監督員の指示や現場の状況、整備委員会の指導により、予定していた工事内容が変更となった場合は、これに従うこと。

3. 各工種について

(1) 枯流れ4修理工事

枯流れ4とは、本館の南側にある4本の枯流れの内、最も南側（梅の館側）に位置する枯流れを指し、本工事の対象範囲とする。

イ. 延石・置石・集水桝・塩ビ管撤去

枯流れ4修理工平面図に示す枯流れの北側（本館側）に置かれた延石・置石については撤去する。取り外す石及び撤去後の保管場所については、施工前に監督員に確認する。

枯流れの中央に埋もれている塩ビ管や半壊した集水桝は、撤去し場外処分とする。塩ビ管はできる限り取り除くが建物の奥に続いている場合は、途中で切除して埋め戻す。

ロ. 堰破損部修理：1箇所

枯流れ中央にある堰は、水が流されていた構造物の遺構となるため、撤去せず破損している中央部の欠損部分を、色を合わせた擬石風のもルタルで補修する。

ハ. 堆積土除去・不陸整正

渡り廊下と枯流れの間の部分について、現在堆積土により渡り廊下側に水が溜まり、建物に影響を及ぼしているため、堆積土を取除き、枯流れ方向に水が流れるよう勾配を付ける。

二. 埋戻し

枯流れの中央部の窪みは、建物からの排水を流すために埋められた集水桝や塩ビ管の埋設跡であるため、この窪みを埋め戻し、枯流れの流れ底を復旧する。埋戻しの高さは、枯流れの両側に残存している玉石が敷かれた部分に合わせる。

また、中流部の堰と飛石の間には、大きく浸食された窪みがあり、元々は枯流れの部分ではないため、この部分も埋戻す。

ホ. 枯れ流れ堆積土除去

枯流れの堰より下流部は、敷かれた玉石の上に堆積土があるため、玉石を動かさないように丁寧に取除く。

ヘ. 玉石補充

修理する枯流れの範囲に現存している玉石敷きは、枯流れの形状を示す重要な遺構であるため、施工中は外したり、動かさないように留意する。枯流れの玉石は、約40%が失われており石を補充する。

補充する石は、形状が扁平な2～3寸のもので、滋賀県姉川産の河原石同等品以上と

する。姉川からの採取については、長浜市に確認すること。

また、補充する石は、庭園のオリジナルの玉石と判別ができるように玉石の裏面に印（サンダーで小さな線を入れる等）を付ける。

ト．危険木伐採伐根

枯流れの中流部にあるタブノキは、枯流れに食い込んだ位置にあり、伐採・伐根する。

チ．地苔貼り付け

枯流れ４修理工平面図に示す地被が衰退した箇所に地苔を張り付ける。購入苔は定着が難しいため、庭園内の地苔を剥ぎ取り移植する。剥ぎ取る場所については、監督員に確認する。

（２）石積修理工事（表門西側）

石積修理は表門西側に位置する三角広場に接する範囲とする。

イ．生垣切り縮め

石積の修理範囲上にあるウバメガシの生垣については、葉張りが大きくなり石組修理に支障となることから、あらかじめ石積側を切り縮める。

ロ．生垣掘り取り

石積修理工詳細図に示す範囲の生垣を掘り取る。掘り取った生垣は石積修理後に復旧するため、監督員の指示する場所に仮植し養生する。

ハ．カズラ石取り外し、据え直し

石積上部のゆがんだカズラ石を取り外す。端部の石は取り外す前に隣の石とのかみ合わせがずれないように位置を記録する。傾倒の原因が樹根による場合は根を切除する。

石積の修理後、カズラ石の天端と前面が揃うように据え直す。

二．石積背面掘削、石積解体、石積積み直し、護岸背面埋戻し

石積を解体する前に、同じ位置に復旧できるように各石に番付（番号を付したテープを各石に貼り写真を撮る）を行う。

修理する石積は、孕みやへこみが生じ歪んでおり、その原因を確認するために、修理範囲の石積を取り外しながらその背面の土壌を掘削する。

石積の積み直しは、必要に応じて飼石を噛ませて石を固定する。同時に護岸背面を堅固につき固め、石積を修理する。

ホ. 衰退箇所盛土整形

カズラ石の背面は、庭園側の表土が下がり衰退しているため、盛土を行い締固める。

ヘ. 生垣復旧・生垣補植

石積修理前に掘り取った生垣を復旧する。枯れや痛みがある樹木については、生垣と同じ高さのウバメガシを補植する。

(3) レンガ柵蓋修理工事

レンガ柵は、本館南側の枯れ池西側の池中にある集水柵構造物とする。

イ. 柵蓋設置

レンガ製の柵の上に置かれた木製の蓋は、腐朽が進み、再利用ができないため、撤去処分する。レンガ柵の縁の中に納まるグレーチング（995×600）をはめ込む。高さが合わない場合は、底にまくら材をとり付け加工して調節する。

ロ. 玉石補充

グレーチングの上に、枯れ池に敷かれた同等の玉石を敷き詰める。補充石となるため、オリジナルの玉石と判別ができるように玉石の裏面に印（サンダーで小さな線を入れる等）を付ける。

4. 工事報告書

- (1) 納入材料、施工中及び完了の写真は随時撮影し、工種、施工順などわかりやすく整理して写真台帳にまとめること。
- (2) 写真台帳と写真データは工事完了届に添付して提出すること。
- (3) 提出書類の内容について担当者から指摘があった場合は速やかに修正すること。

5. その他

- (1) 本仕様書に記されていない詳細や仕様の変更については担当者と協議し、関連諸法令を熟知の上施工すること。
- (2) 現場内での火気の使用は係員の指示に従うこと。
- (3) 資材の搬入、搬出のための作業員、車両の通行については担当者と十分に協議し、通路付近住民に周知し、かつ交通整理員の配置など安全対策を実施すること。
- (4) 慶雲館（年中無休、盆梅展前後のみ休館）開館中の施工となるため、来館者への安全対策を十分に講じること。特に1月上旬～3月上旬までは盆梅展の会場となり、来館者の増加が想定されるため、会期中の来館者への配慮については施設管理者の指示に従うこと。